

「移住」の手前に、「生活」の余白を。

若年層のリアルな視点から紐解く、関係人口創出・フェーズ1.5の提言

チーム 人おっとり系

森井えり子

尾澤叶望

高木野絵

山本千春



チームメンバー



高木野絵

- ・ 関東歴：9年
- ・ 帰りたい度★★

2拠点生活が理想です！

小林千春

- ・ 関東歴：6ヶ月
- ・ 帰りたい度★★

ゆくゆくは、愛媛でのんびり暮らしたい

森井えり子

- ・ 関東歴：5年目
- ・ 帰りたい度★★

今はたまに帰省するので十分だけど、おばあちゃんになるまでに帰りたい

尾澤叶望

- ・ 関東歴：3年目
- ・ 帰りたい度★★

将来的には。
直近（新卒就職）等は考えてない。

松山の移住施策は着実に成果を上げている。
しかし、その手前には広大な「潜在層」が眠っている。



地方の暮らしに少し興味はあるが、
移住は自分ごとではない若者

松山に
移住したい人

(現在の施策でカバーできている層)

「私たち若者にとって、
『移住』という言葉は
まだ重すぎるんです。」

現代の若者を突き動かすのは 「移住への憧れ」ではなく、「焦り」と「疲れ」。

都内出身者の焦燥感

「何か成し遂げなきゃ」 という焦り

コト消費や体験経済の圧力。
20代のうちに特別な経験をしなければ
という強迫観念。

「時代の変化が速くて、
置いていかれる焦りがある…」

地方出身者のニーズ

都会の喧騒からの 「リセット」

情報過多な環境での疲弊。
本格的な移住の決断を迫られない、
癒やしのサードプレイスを求めている。

「都会の生活に疲れた。
でも本格的な移住を考える心の余裕もない…」

提言：松山市は「移住する」街から、「少し住んでみる」街へ。

旅行 → 移住

[ハードルが高すぎる]

旅行以上、
移住未満の
「フェーズ1.5」

腰かけ移住 (カジュアルな余白の提供)

フェーズ1.5

なぜ「少し住む」ことが有効なのか？ チームの海外原体験が示す「時間（余白）」の魔法。

観光客マインド (Tourist Mindset)



スマホと睨めっこ。
街を『消費』する。

観光してもいいし、しなくてもいい余白
(暇を持て余す)

Day 1

Day 2

Day 3

Day 4

Day 5

顔が上がり、地元の日常
(スーパー・自転車) を体験する。

Day 7

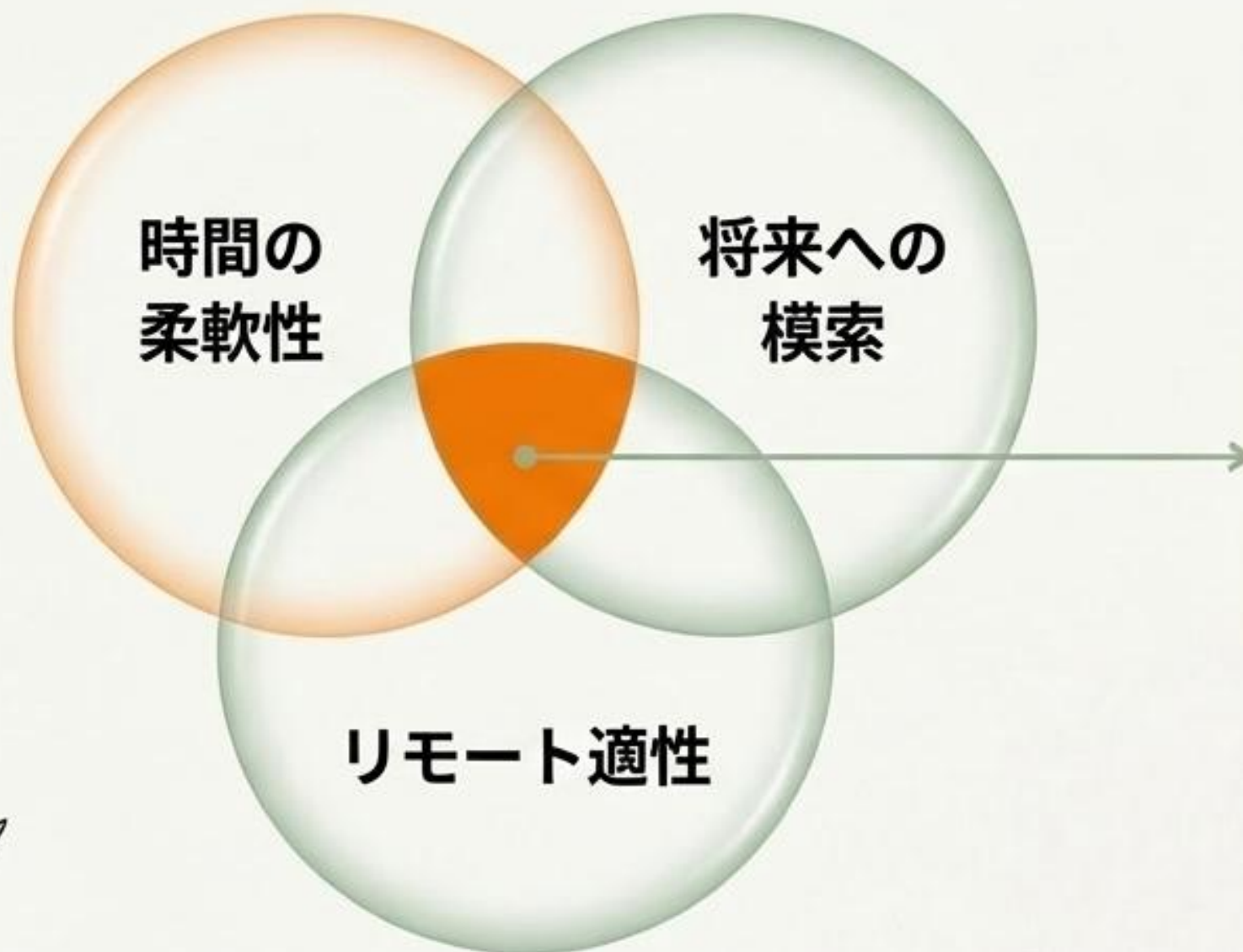
生活者マインド (Resident Mindset)



【フィンランド・オーストラリアでの原体験】

「時間」があること自体が、旅行者を生活者に近づける。最初スマホを見ていた若者が、暇を持て余すことで地元のスーパーに足を踏み入れる。この「余白」こそが最大の武器になる。

**ターゲット定義：移住意欲は未定でも、
「時間と選択肢」を持つ若年層。**



ターゲット層：

**Profile A: 単位取得済みの大学
四年生・就活後の学生**

**Profile B: 働く場所を選ばない
フルリモートワーカー**

**結論：移住はハードルが高い。しかし、「現在の生活を維持しながら、別の場所で過ごす」
という彼らの欲求に、松山の「QOLの高さと生活コストの低さ」は完璧に刺さる。**

比較マトリクス：既存の「直線型」から、 若年層向けの「グラデーション型」へ。

	現在の移住施策	若年層提言：フェーズ1.5
ターゲット	ガチ真剣層 (すでに移住を決めている人)	関心の芽がある潜在層
トーン&マナー	真面目な相談・ コンシェルジュ対応	ニッチでカジュアルな 語り合い
提供価値	移住手続き・物件探しの サポート	焦りと疲れを癒やす 「余白の時間」
最終ゴール	直近での「移住決定」	人生の転機で思い出される 「記憶の種まき」

実行のロードマップ：認知から定着 までを繋ぐ「3ステップ」構造。



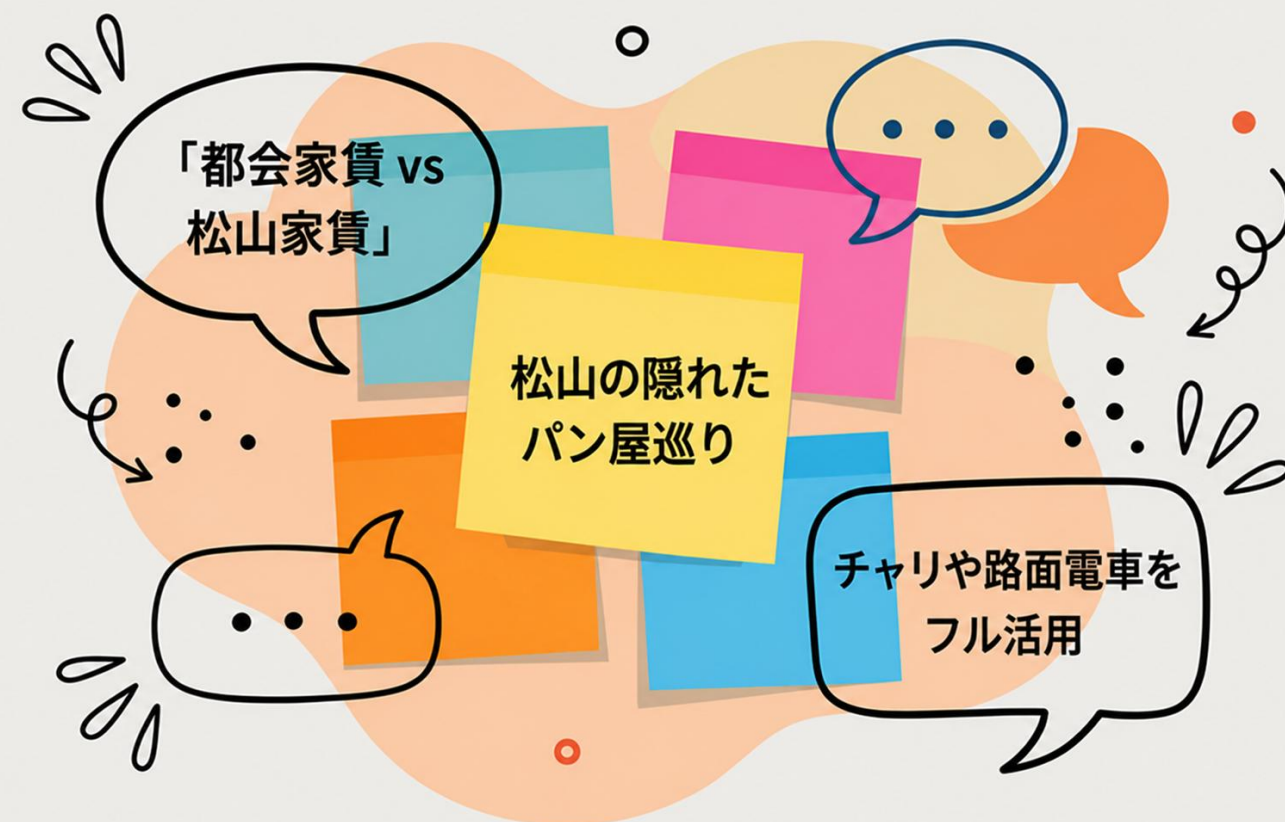
「単発の施策ではなく、1本の太い流れとして設計する。」

Step 1 [関東]：「移住相談会」をやめ、ニッチなテーマの「交流会」を開く。

移住という言葉を使わず、松山のリアルな生活価値を別の角度から語り合う場を作る。



従来の移住相談会



Proof Point： Youthメンバーが既に**2回**実施済み（延べ**17名**参加）。

・ 新規参加率は**約47%** ・ 満足度・次回参加意向はともに**100%**
実際に「潜在層」が集まることを裏付けました。

Step 2 [現地]: 「観光地巡り」ではなく、 余白を仕組んだ「1週間の疑似日常」。

	月	火	水	木	金
午前 (Morning)	カフェで リモートワーク / オンライン授業		カフェで リモートワーク / オンライン授業		カフェで リモートワーク / オンライン授業
午後 (Afternoon)	余白	余白	余白	余白	余白
夜 (Evening)	 マツワカメンバー・ 地元民との交流	 地元の温泉	 マツワカメンバー・ 地元民との交流	 地元の温泉	 マツワカメンバー・ 地元民との交流



.....→ スーパーへの買い物や
図書館通いへ繋がる

Step 3 [その後]: 「帰省後」こそが ファンコミュニティの始まり。

首都圏に戻っても切れない繋がり。



首都圏での定期的な
ゆるい集まり



松山の日常を
思い出す発信



次の『腰かけ』への
再訪意欲

体験ツアーから帰った若者が、移住の
プレッシャーを感じることなく、
松山への熱量を維持し続けるための
安全網（セーフティネット）。ここで
の関係性が、将来の決断の基盤となる。

最終ゴール：直近の数字ではなく、 人生の転機に選ばれる「記憶の種まき」。

Age 20-22

柔軟な学生時代に
「松山で生活できた」成功体験
(ここで記憶の種が蒔かれる)



Age 25-30 : 人生の転機

就職、転職、結婚、
都会生活での疲弊
(若者の生活軸が激変するタイミング)



The Decision

「そういえば、あの時
過ごした松山が良かったな」
(自然な移住の選択)



短期的な移住者増を追うのではなく、10年後の最も確実な選択肢になるために。
今、松山で「暮らすような腰かけ」を始めよう。